

令和5年度自己評価結果公表シート

作成 大阪商業大学附属幼稚園

1. 本園の教育目標

学校法人谷岡学園の建学の理念“世に役立つ人物の養成”を基礎として、“人間形成の土台づくり”を進めるため、園児達の遊びや生活を通じた教育活動を行う。

- ① 豊かなこころを育てる・・・品格ある立派な人間に育てるために！
- ② 小学校につながる力を育てる・・・小学校でますます学力が向上するように！
- ③ やわらか頭を育てる・・・自分の頭で考える力を育てるために！
- ④ 楽しい生き方ができる・・・自己の力を効果的に発揮できるように！

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・建学の理念をもとにした教育を推進するため、以下の五点に重点を置き、教育内容の充実、改善に努める。
 - (1) 建学の理念、幼稚園教育要領が生きた生活や遊びを展開する。
 - (2) 主張することができる力と聞くことができる力を養い、小学校につながる力を育て、人間形成の土台づくりとしての幼児教育を実践する。
 - (3) 豊かな学びと体験を生む環境を整え、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」並びに心情、意欲、態度を育てながら、学ぶ力、考える力及びコミュニケーション力を養い、仲間関係だけでなく、人同士の関係を豊かにする保育を実践する。
 - (4) キンダーカウンセラーや行政機関等との連携を図り、支援を要する園児への取り組みを継続し、保護者の相談等への対応を充実する。
 - (5) 保護者との連携を通して、園児と保護者の満足度を向上させる。
- ・教員の資質向上を目指し、外部研修への積極的参加及び園内研修の強化に努めるとともに、教員自らが保護者の意見も参考にしながら、保育の内容の再確認と見直しを行い、PDCAサイクルを廻しながら自己の教育力向上を図る。
- ・教育方針に対する保護者の理解並びに保護者との連携、協力を深めることにより教育効果を高め、園児が基本的な生活習慣（生活リズムの確立、TPOの感覚、内省する習慣、我慢する気持ち、踏んばる力）を身につけることで、園児が育つ幼稚園を目指す。
- ・高校生や大人と園児の交流を深め、園児の生活の幅を広げ、園児の一層の成長につなげるため、地域や系列校との連携に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関し、教職員間の共通理解を図る。	保育マップの作成に取り組み、幼稚園教育要領を建学の理念及び教育方針とすり合わせながら、保育の有機的な連携を図るとともに、保育の可視化に努めた。また、教員による日々の振り返りを行い、ICTも活用し、教育に関する情報の共有に努めた。 引き続き、幼稚園教育要領と建学の理念等との接点を意識し、より良い教育課程の編成・実施に向けて取り組んでいく。

<p>建学の理念、幼稚園教育要領、教育課程、園児の実態等を基に指導計画を作成する。</p>	<p>園児の実態を踏まえ、学びや育ちを保証できるように教員が意見交換を行いながら、各学年のつながりを意識し、建学の理念及び幼稚園教育要領を踏まえた指導計画の作成に努めた。</p> <p>引き続き、「カリキュラムマップ」の作成も取り入れながら、教育課程の再編成と指導計画の充実に取り組んでいく。</p>
<p>教職員間の保育に対する共通理解を強化するため、園内研修を充実させ、研究会等へも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上に努める。</p>	<p>オンラインでの研修も含め外部研修等へ積極的に参加し、その内容を園内研修で報告するなど、日々の保育の参考となるよう情報共有を推進した。</p> <p>テーマを設定した園内研修を複数回実施し、教職員間で意見交換を行い、互いに刺激し合いながら、自己研鑽にも取り組んだ。</p> <p>また、支援を要する園児についての情報は、全教職員間で共有し、カウンセラーの助言も取り入れ、当該園児に対する共通理解を深め、見通しを持った保育に取り組んだ。</p>
<p>園だよりや子育てサロン、公式WEBサイト（新着情報、ブログ）などを通して幼稚園の情報を発信していく。</p>	<p>保護者との懇談、保育参観及び子育てサロン等を開催し、教育方針及び園児の学びや育ちを定期的に保護者に伝えるとともに、保護者の思いや考えを受け止める機会としても活用した。</p> <p>個人情報の管理に配慮しながら、公式WEBサイトやInstagram を利用し、園児の幼稚園での生活や行事の様子等の情報発信に努めた。</p> <p>保護者への情報伝達用の「れんらくアプリ」を活用し、保護者への連絡を迅速且つ効率的に行うとともに、同システムにより通園バスの位置をリアルタイムで発信し、通園バス利用者のバス停での待ち時間の短縮を図るなど、保護者の利便性の向上に努めた。</p> <p>また、保護者会の連絡にも「れんらくアプリ」を活用し、活発な保護者会活動の一助とした。</p>
<p>安全に配慮した環境づくり（施設・設備の改善）を進める。</p>	<p>保育環境の整備のため、随時、遊具の点検を実施し、必要に応じて補修した。</p> <p>機械警備を継続するとともに、園舎内外の補修・改善も行い、昨年度実施した正門と裏門門扉のオートロック式電気錠付門扉への更新により、外部からの不審者の侵入を防ぎ、園生活の安全を確保している。また、分園にも同様のオートロック式電気錠付門扉を設置し、安全確保に努めている。さらに、昨年度の防犯カメラの増設により、園周辺の監視も充実できた。</p> <p>安全な園児のバス送迎を図るため、通園バスに設置したドライブレコーダーの記録をもとに、教職員で意見交換を行い、バス運行の安全性の向上を図った。</p>
<p>地域・系列校との連携を進める。</p>	<p>地域との連携では、園児達が地元小学校を訪問し、園児と小学生の交流を図った。</p> <p>系列校との連携では、大阪商業大学高等学校の生徒による</p>

	<p>園児の意見を取り入れた玩具（木製パズル）の制作を実施し、園児と生徒の交流を行った。また、同高校の吹奏楽部の生徒による演奏会を開催し、園児の親子だけでなく、地域の方々にも生演奏を楽しんでいただいた。</p> <p>さらに、大阪緑涼高等学校へ園児が出かけ、保育系進学コースの生徒との交流を行った。</p>
新しい未就園児保育及び預かり保育施設を有効に活用する。	<p>保育センターの老朽化に伴い、大阪商業大学高等学校の敷地の一部を譲り受け、分園「そよかぜ」を新設した。令和5年9月より利用を始め、未就園児保育（プレスクール）と預かり保育を実施することとなった。</p> <p>プレスクールの利用者は、翌年度には新入園の募集対象となるため、園児確保の観点から新施設の利用満足度を上げるように努めた。</p> <p>引き続き、「そよかぜ」の有効活用を図り、利用者の満足度向上と園児獲得に取り組んでいく。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が法律上で5類相当に移行したことに伴い、感染流行前の保育を取り戻すために、感染者を出さないための方策を検討し、実践した。その結果、施設内での感染者の発生は無かった。 ・幼稚園教育要領及び幼稚園の教育方針を意識し、教員間の情報共有にも努め、園児一人一人を見つめる教育を実践した。また、達成感を味わえるよう、園児の考えを大切にし、園児を中心に置いた教育を実践した。 ・園児が自らの考えや思いを伝える話し合いの時間を大切にして、園児同士、園児と大人の関わりも意識し、コミュニケーション力や仲間意識の涵養に努めた。 ・文庫を活用して、園児が多くの絵本に出会う機会を創出し、物語に入り込む集中力やイメージを広げる想像力を養うとともに、豊かなこころの育成に努めた。 ・分園「そよかぜ」を本園に隣接するかたちで開設し、預かり保育の質向上を図った。 ・生き物の飼育、野菜の栽培など、さまざまな日々の園生活における体験や遊びを通して五感に働きかけ、建学の理念を意識した質の高い教育を展開することにより、園児の学びや育ちに向かう心情・意欲・態度を育てた。 ・火災、地震、不審者の侵入を想定した三種の避難訓練を行い、園児に対して「自分の命は自分で守る」ことができるように指導し、日々の生活における危険を回避する力を育んだ。 ・教員に研修会やセミナーなどへの参加を促し、自己研鑽の一助とするとともに、園内で研修内容を報告する機会を設け、研修内容の共有を進め、教員全体の資質向上に努めた。また、テーマを設定した園内研修も実施した。 ・リニューアルした公式WEBサイトに加え、Instagramも活用して情報発信に努め、保護者及び一般の方へ教育内容の周知を図った。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者との効果的な連携の推進	幼稚園に対する保護者の期待や要望を保護者懇談会、保育参観、子育てサロン及び担任等を通じて把握し、保護者の求める幼稚園像を確認したうえで、カリキュラムの見直しも検討し、

	<p>建学の理念や教育方針に基づく教育を展開する。</p> <p>公式WEBサイトや Instagram を用いてタイムリーに情報発信を行い、保護者から寄せられる感想や意見等をもとに保護者との連携強化を図っていく。</p> <p>定期的に保育参観を開催し、日常の保育の様子を公開する機会を継続して設けるとともに、「親子ふれあいの日」など男性が参加しやすい行事も継続して実施する。</p> <p>保護者会活動に対しては、保育に支障がない限り、施設利用等の協力を行い、活動を支援していく。</p>
教育力向上へ向けた取り組み	<p>園内研修の充実と研修会（学会、全日幼、大私幼、近研関係、大阪府私学課、大私幼プロジェクト、ちゃいるどネット他）への積極的参加により、引き続き、教員の教育力向上を図る。</p> <p>働き方改革を進めながら時間の使い方を見直し、教員の自己研鑽を推進する。</p> <p>日々の保育を振り返りながら、改善点を早期発見し、改善策を適宜講じることにより、教育力の向上を図っていく。</p> <p>教職員間の情報共有を進め、個人の問題点を幼稚園としての問題点として捉え、全教職員で解決策を考えながら、教育内容の改善につなげていく。</p> <p>また、公開保育を実施することにより、外部評価者の意見を聴き、改善すべき点は改善を進めていく。</p>
安全管理マニュアルに基づく 防災・防犯体制の確立	<p>安全管理マニュアルは、状況に即して随時更新する。</p> <p>学期毎に避難訓練を実施して、震災やゲリラ豪雨等の自然災害を含む大規模災害に備え、全教職員が園内の避難経路及び各自の役割分担を確認し、自覚を持って行動できるようにする。</p> <p>引き続き、布施警察署と連携した防犯訓練の実施や防犯意識の向上を図る。</p> <p>法人本部危機管理担当及び大学警備員とも継続して連携しながら、園児が安心して園生活を送れるよう、幼稚園周辺の定期的な巡回、危険個所の把握及び教職員間の情報共有を行う。</p>
特別支援教育の充実	<p>支援を要する園児の保育は、専門家の意見や助言等を取り入れて実践していく必要があるため、今後もキンダーカウンセラーと教職員との意見交換や研修を充実させるとともに、保護者の相談にも対応するため、キンダーカウンセリングの活用を促進する。併せて、保護者に対して園児への「気づき」を促す取り組みを継続して実施する。</p> <p>園児の発達や遊びの様子を把握し、園児と保護者へ適切な対応を行うとともに、教員の確保を含めた体制を整える。</p> <p>教員が積極的に外部研修へ参加し、園内研修を通じて研修内容の周知を図る。また、公的機関と連携することにより、支援を要する園児の成長を促していく。</p>
地域・系列校との連携	<p>創立から続く地域とのつながりを大切にし、さらなる相互理解を深めるため、地域にも諸行事などを通して積極的に働きかけ、「おひさまフェスタ」の開催なども通じて、幼稚園の活動、</p>

	<p>行事等への理解が得られるように努める。</p> <p>また、幼小接続に関して、近隣小学校との連携をこれまで以上に充実させていく。</p> <p>引き続き、大阪商業大学の施設利用、大阪商業大学高等学校デザイン美術コースとの連携による木製パズル制作及び大阪緑涼高等学校保育系進学コースとの連携を図るとともに、系列校との連携の充実を検討する。</p>
子ども・子育て支援新制度への対応	<p>「認定こども園」への移行については、研修会への参加及び東大阪市並びに近隣幼稚園への聞き取り等を行い、情報収集を進める。</p> <p>また、入園に際して「認定こども園」との併願者がいることから、併願者が本園を選択するための条件等について検討していく。</p>
創立 70 周年に向けて、記念式典等について検討を進める。	<p>令和 6 年度が創立 70 周年の年となることから、記念誌の発刊や記念式典等の開催について検討を進めた。また、保護者会とも協議し、取り組みの一部に保護者会の支援を受けることとなった。</p> <p>令和 6 年度は、記念誌の発刊や記念行事等を円滑に実施できるよう取り組んでいく。</p>

6. 学校関係者よりの意見

<p>★心情・意欲・態度を育てる教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 子どもの気持ちを優先して、自ら問題解決するように促している。 ✓ 行事等が先生主導で進められるのではなく、子ども主導で進められている。また、危険な遊びも禁止せず、子どもに考えさせている。 ✓ 多くの行事（運動会やクリスマス会など）において、結果のみでなくそこに至るまでの過程を大切にしている。 ✓ 異年齢児とのかかわりや全園児で取り組むものもあり、他者への思いやりや年下の園児へのいたわりの心が養われている。 <p>★充実した保育、施設及び環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 絵本が充実しており、自然豊かで、体で四季を感じられ、子どもたちがのびのびとしている。 ✓ 教員数が増えたことは喜ばしい。 ✓ 多くの活動で「やってみる」を大切にして、子ども主体で保育をしている。 ✓ 預かり保育が充実しており、担当の先生からたくさんお話が聞けて助かる。 ✓ 風邪などで行事に参加できなくても、別の日に開催していただけるのでありがたい。 ✓ 豊かな自然に加え、野菜の栽培、お米の収穫など四季を感じられる。 ✓ あやとりやけん玉など昔からある遊び、季節の行事、伝統文化に触れる機会が多く、さまざまな体験ができる。 ✓ 防犯・安全対策としての施設面（監視カメラ、電子錠付門扉の設置、機械警備、バス置き去り装置の設置など）及び行事内容（訓練の実施、講習会の開催など）が充実しており、園児が安全・安心に保育を受けられる環境が整っている。 ✓ 避難訓練では、園児に対して「自分の命は自分で守る」ことを各自が考えるように指導し、隣接高等学校との連携も行っている。

- ✓ 地域や家族との関係を深める行事やイベントを企画・実施し、地域や家族に密着して運営をしている。
- ✓ クラス単位での活動、学年での活動、全園児での活動のバランスが良い。

★新型コロナウイルス感染症に関する取り組み

- ✓ 新型コロナウイルス感染症が法律上5類相当となったことに伴い、如何にして今までの行事等ができるか、また、どのように実施するかを教職員一同で協議、検討し、実際に工夫しながら行事等を実施していた。

★子どもや保護者への関わり

- ✓ 教職員全体で園児一人一人の気持ちに寄り添った、きめ細やかな保育を展開している。
- ✓ 卒園生も訪問しやすい雰囲気があり、親しみやすい。
- ✓ 園庭開放や「おひさまフェスタ」を開催し、幼稚園を開放、公開している。
- ✓ 教員が子どもたちの名前を覚えていて安心できる。
- ✓ 保護者会の活動が活発で、楽しく参加できる。
- ✓ 保護者会の活動に教職員が積極的に関わり、活発な保護者会活動が行われている。
- ✓ キンダーカウンセリングが配置されており、安心できた。
- ✓ SNSでの情報発信があり、保護者との連携が密に行われ、幼稚園の様子がよく分かる。
- ✓ 子育てサロンの話が、心に響く。

★検討すべき意見

- ✓ 若い先生が多く、経験不足の点や判断が曖昧なところが見受けられるので、その都度注意、指導するなどし、豊かな経験を積めるように努めるべきである。
- ✓ 保護者会が大学施設を利用する場合、一定のルールについては理解できるが、もう少し利用しやすく改善して欲しい。
- ✓ 行事予定等をもう少し早めに伝えて欲しい。
- ✓ 幼稚園裏の駐輪場へ屋根の設置が必要である。
- ✓ クリスマス会を大学のホール（蒼天）で開催して欲しい。
- ✓ 弁当は業者の弁当ではなく、園内で調理をした温かい給食が良い。
- ✓ 行事が多く、特に行事が集中する月は、働いている保護者には厳しい。
- ✓ 行事の際に大学の駐輪場を使用するが、駐輪場は近いところにあるほうが良い。
- ✓ 「れんらくアプリ」での預かり保育の申込みは、前日でも可能として欲しい。
- ✓ 登降園時における自動車送迎について、保護者へ交通ルールの順守等マナー向上を働きかけるべきである。

以上の関係者評価を真摯に受け止め、慣れ合いになることなく、より良い保育・教育を目指して各事業を推進する。

7. 財務状況

学校法人谷岡学園として、監事及び公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。